

報道発表資料の配付日時 2025年10月29日(水) 15時00分

発表項目	札幌医科大学附属病院における 国内初「地域医療推進型高度遠隔ICU」の取り組みについて
概 要	札幌医科大学附属病院（病院長：渡辺 敦）では、本道の地理的・気候的特性による医療課題や集中治療専門医の偏在などに対し、医療資源が不足する地域との連携強化を図り、地域医療構想の推進に寄与することを目的とし、令和8年1月から国内初となる「地域医療推進型高度遠隔ICU」を導入し運用を開始することとなりましたのでお知らせします。 これに先立ち、本事業で連携する製鉄記念室蘭病院（病院長：前田 征洋）及び北見赤十字病院（病院長：荒川 穰二）の被支援施設と当院間で、令和7年10月29日に協定を締結いたしました。 将来的には、道内全域のICUをネットワークで結ぶ「（仮称）北海道遠隔ICU医療ネット」の構築・展開を目指していきます。 協定締結者： 札幌医科大学附属病院 病院長 渡辺 敦 製鉄記念室蘭病院 病院長 前田 征洋 北見赤十字病院 病院長 荒川 穰二 ※本事業の詳細については、別紙をご参照ください。 ※運用開始前に本院にて報道公開を行う予定です。 公開日等は後日あらためてお知らせいたします。
報道(取材)に当たってのお願い	ご取材いただける場合は、下記問い合わせ先までE-mailにて 「貴社名」「貴部署名」「ご芳名」「ご連絡先」をお知らせいただけますと幸いです。
本件に関する問い合わせ先	札幌医科大学附属病院経営戦略部改革推進課 担当：瀬上 E-mail：kikakuchousei@sapmed.ac.jp TEL：011-611-2111（内線31260）

札幌医科大学附属病院における 全道を繋ぐ国内初の地域医療推進型高度遠隔 ICU の取り組み

1 事業概要

(1) 地域医療推進型高度遠隔 ICU とは

情報通信技術(ICT)を活用して、地域医療機関の集中治療室(ICU)を、専門医や医療スタッフが豊富な拠点病院(大学病院等)から遠隔で支援する医療モデル
(遠隔ICUの概要は別紙のとおり)

(2) 背景・目的

本道の地理的・気候的特性による医療課題や集中治療専門医の偏在などに対し、医療資源が不足する地域との連携強化を図り、地域医療構想の推進(病床機能の分化・連携、医療・介護従事者の確保・育成)に寄与することを目的に遠隔 ICU を導入しようとするもの。

(3) 事業内容

・札幌医大病院が支援拠点施設、製鉄記念室蘭病院(ICU4床)及び北見赤十字病院(ICU6床)が被支援施設となり、遠隔ICU支援システムを整備し、来年1月から本格運用を開始予定。

(4) 期待される効果

- ・地域医療の質向上、死亡率の低下、予後改善、医療資源の適正利用
- ・医療従事者の業務負担軽減、働き方改革の推進
- ・若手スタッフの教育機会の創出、臨床研究の促進
- ・病院経営への貢献

2 目指す姿

- ・札幌医大病院では、道や市町村、医師会、看護協会など関係機関と連携し、将来的に道内全域の ICU をネットワークで結ぶ「(仮称)北海道遠隔 ICU 医療ネット」の構築・展開を目指す。

3 今後のスケジュール

- ・令和7年 11 月 専任看護師養成研修(支援拠点施設、被支援施設)
- ・令和7年 12 月 システム完成、試験運用実施
- ・令和8年 1 月 本格運用開始

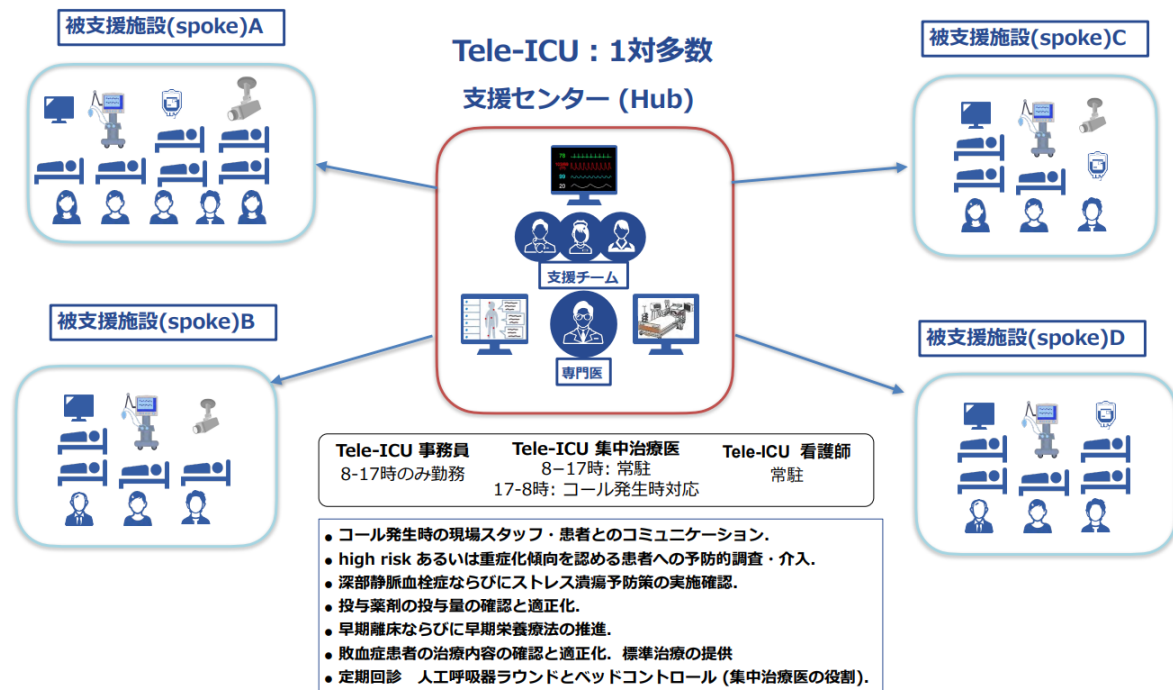
4 その他参考事項

- ・本事業は、文部科学省「令和6年度大学改革推進等補助金高度医療人材養成事業」(2億円)の採択を受けて実施。
- ・国内の先進的な導入事例である昭和医科大学病院(東京都)は、平成 30 年(2018 年)からアジア初となる都市型遠隔 ICU を導入。現在、5病院・112 床を支援。

遠隔ICUの概要

遠隔ICUとは

遠隔ICUでは集中治療専門医が常駐する遠隔地の「支援センター」がベッドサイドスタッフと患者ケアについてコミュニケーションを取ることで、患者、医療従事者への「安心安全」を提供します。1つの支援センターが複数の場所に存在するICUとの間で、ネットワーク経由で医療情報をリアルタイムに共有することで、遠隔から診療を支援します。



【出展】2023年4月29日 臨床モニター学会 NPO法人 集中治療コラボレーションネットワーク(ICON)橋本 悟理事長講演資料より抜粋

遠隔ICUでできることと想定される導入効果

遠隔ICUでできること

① ビデオシステムによるコミュニケーション

- ・ 治療方針についての相談
- ・ 患者急変時に必要な対応についての相談
- ・ 患者とのコミュニケーション

② 持続的モニタリングによる重症化予防と介入

- ・ 遠隔からの定期ラウンド、定期回診等
- ・ 患者重症度のスコアリング
- ・ 満床時における退院調整 (退院後死亡率予測、再入院率予測)

③ データ利活用による臨床研究、経営分析

- ・ 蓄積されたデータのDPC分析
- ・ 臨床研究への活用

想定される導入効果

➤ 患者の救命

- ・ 死亡率の低減
- ・ ICU滞在日数の削減と早期の社会復帰

➤ 働き方改革への対応

- ・ 集中治療医、認定看護師へのタスクシフト
- ・ 無駄な医療行為の排除
- ・ 医師、看護師の配置体制の効率化
- ・ 主治医のオンコールの削減
- ・ 若手スタッフの教育、臨床研究機会の創出

➤ 病院経営への貢献

- ・ 医薬品投与量の削減
- ・ 人工呼吸器等医療機器の適正利用
- ・ ICU回転率の向上
- ・ 遠隔ICU加算の適用